

決算説明資料

2019年3月期 第2四半期

代表取締役社長 佐野 勝大

2018年11月14日

Index

- 第2四半期業績の概要
- 通期業績予想
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第2四半期 業績の概要

第2四半期（累計期間）の概況

■ 業績

- 下期予定案件の上期前倒し獲得、及びロイヤルティ売上の増加により計画を上回って推移
 - 連結売上高：1,128百万円（前期比1.4%減）
 - 連結営業利益：13百万円（黒字化）

■ セグメント別概況

- **コネクティビティ&セキュリティ事業**
 - 車載セキュリティ関連で契約時一時金、既存顧客ロイヤルティなどの売上を計上
- **組込みソフトウェア事業**
 - 車載機器を中心とした既存顧客からのロイヤルティ売上、新規顧客からの契約時一時金売上などにより、ほぼ計画通り進捗
- **ソフトウェアディストリビューション事業**
 - 通信関連製品の前倒し売上、既存顧客のライセンスを中心に計画を上回って進捗
- **ソフトウェアサービス事業**
 - コンテンツライセンスが堅調、ほぼ計画通り進捗

連結損益計算書

単位：百万円

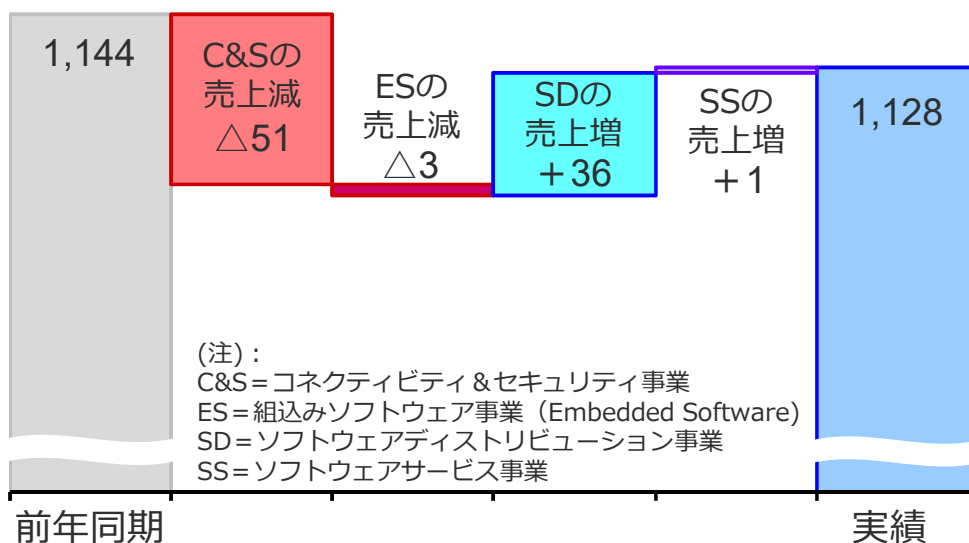
	前年同期	2019/3期 (第2四半期)	増減
売上高	1,144	1,128	△16
売上原価	587	565	△21
売上総利益	556	562	5
販管費	587	548	△39
営業利益	△30	13	44
営業外損益	38	3	△35
経常利益	8	17	9
特別損益	△0	△0	0
法人税等	49	50	0
四半期純利益	△42	△33	8

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

前期比増減

単位：百万円

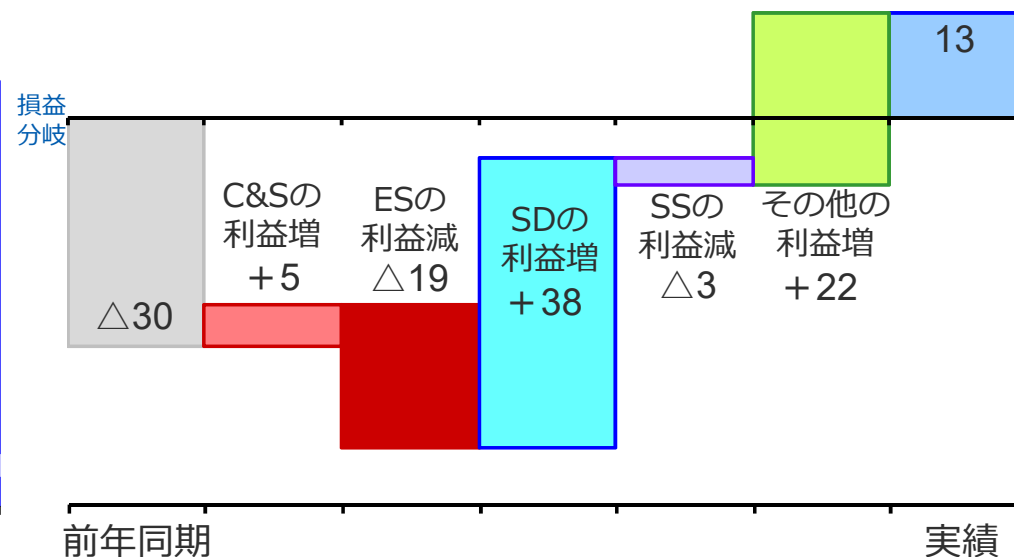
売上高



売上高減少の主な要因

- C&S事業において、受託開発売上が減少

営業利益



営業利益増加の主な要因

- SD事業において、新規顧客に対するコミッション（手数料）売上の増加に伴い利益が増加
- その他、前期にエーアイコーポレーション株式取得費用等があったことにより利益が増加

連結貸借対照表（資産の部）

単位：百万円

	2018/3月末	2018/9月末	増減
現金・預金	954	1,139	184
受取手形・売掛金	685	466	△219
有価証券	400	300	△100
棚卸資産	14	50	36
前払費用	60	61	0
その他流動資産	48	81	32
流動資産	2,163	2,099	△64
のれん	736	631	△105
その他固定資産	383	267	△116
固定資産	1,120	899	△221
資産合計	3,284	2,998	△286

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

単位：百万円

	2018/3月末	2018/9月末	増減
買掛金	185	96	△89
未払金	74	24	△50
前受金	100	108	7
その他流動負債	172	44	△128
流動負債	533	274	△259
固定負債	101	82	△19
資本金	1,470	1,481	10
資本剰余金	1,440	1,451	10
利益剰余金	△300	△334	△33
その他純資産	37	42	4
純資産	2,648	2,641	△7
負債・純資産合計	3,284	2,998	△286

通期業績予想

通期業績予想（連結）の修正

単位：百万円

	上期			下期			通期		
	期初予想 (A)	実績 (B)	増減額 (B-A)	期初予想 (A)	今回修正 (B)	増減額 (B-A)	期初予想 (A)	今回修正 (B)	増減額 (B-A)
売上高	1,037	1,128	91	1,390	1,233	△156	2,427	2,362	△65
営業利益	△147	13	160	151	△9	△160	4	4	-
経常利益	△147	17	164	166	3	△162	19	21	1
純利益	△141	△33	107	112	4	△108	△28	△29	△0

- 期初に公表した2019年3月期 第2四半期累計期間及び通期連結業績予想値を上記のとおり修正
- 通期における営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想と同程度になる見込み
- 売上高については、コネクティビティ & セキュリティ事業において、受託開発案件の獲得等が期初予想を下回る見込み

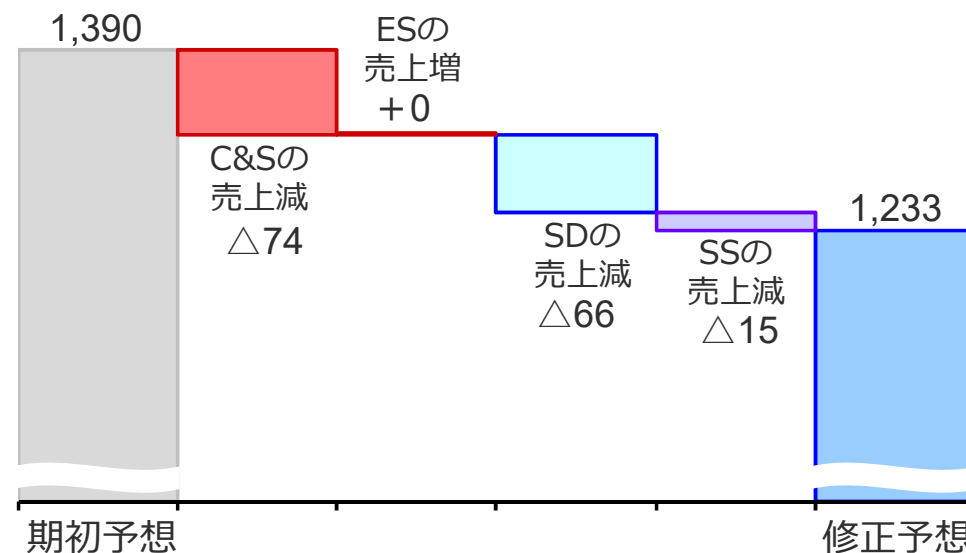
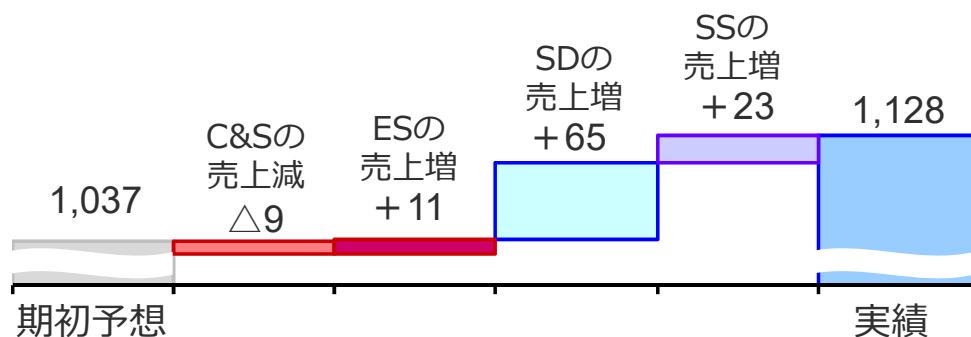
売上高の増減

単位：百万円

上 期

下 期

(注)：C&S=コネクティビティ&セキュリティ事業
ES=組込みソフトウェア事業（Embedded Software）
SD=ソフトウェアディストリビューション事業
SS=ソフトウェアサービス事業



■ 上期売上高増加の主な要因

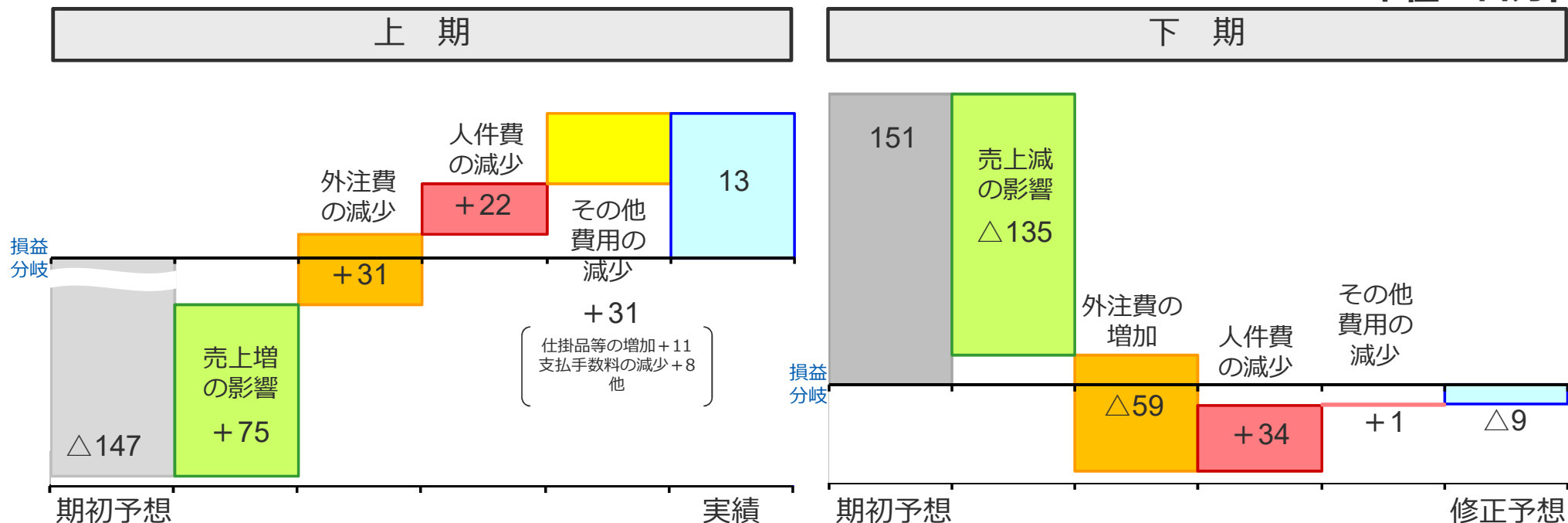
- SD事業において、下期想定のコミッション（手数料）売上を含む案件を獲得した
- SS事業において、ロイヤルティ売上等が予想を上回り推移した

■ 下期売上高減少見込の主な要因

- C&S事業において、受託開発案件の獲得が期初予想を下回る見込み
- SD事業において、上期に前倒し計上された影響等により期初予想を下回る見込み

営業利益の増減

単位：百万円



■ 上期営業利益増加の主な要因

- 売上高増加の影響
- 受託売上案件が予想より下回ったことによる外注費の減少
- 採用計画未達等による人件費の減少

■ 下期営業利益減少見込の主な要因

- 売上高減少の影響
- 採用計画未達等に伴い、外注費が期初予想を上回る見込み
- 採用は継続するも、人件費が期初予想を下回る見込み

通期業績予想（連結）に対する進捗

単位：百万円

	通期修正 業績予想	第2四半期 実績	進捗率（%）
売上高	2,362	1,128	47.8
営業利益	4	13	—
経常利益	21	17	—
純利益	△29	△33	—

セグメント及び製品分野別 動向と取り組み

セグメント及び製品分野別の売上高

単位：百万円

セグメント	分野	前年同期 (連結)	2019/3期 第2四半期 (連結)	増減率
コネクティビティ&セキュリティ事業		171	120	△29.9%
組込みソフトウェア 事業	デ ー タ ベ ー ス	56	47	△16.3%
	高 速 起 動	123	129	4.8%
	小 計	179	176	△1.8%
ソフトウェア ディストリビューション事業		613	650	6.0%
ソフトウェア サービス事業		179	180	0.9%
合計		1,144	1,128	△1.4%

セグメント別売上及び利益

単位：百万円

		前 年 同 期 (連 結)	2019/3期 第2四半期 (連 結)	増 減 額
コネクティビティ& セキュリティ事業	売 上 高	171	120	△51
	セグメント利益	△53	△ 47	5
組込みソフトウェア 事業	売 上 高	179	176	△3
	セグメント利益	51	32	△19
ソフトウェア ディストリビューション 事業	売 上 高	613	650	36
	セグメント利益	※ ₁ △4	※ ₁ 34	38
ソフトウェアサービス 事業	売 上 高	179	180	1
	セグメント利益	※ ₂ △1	※ ₂ △ 5	△3

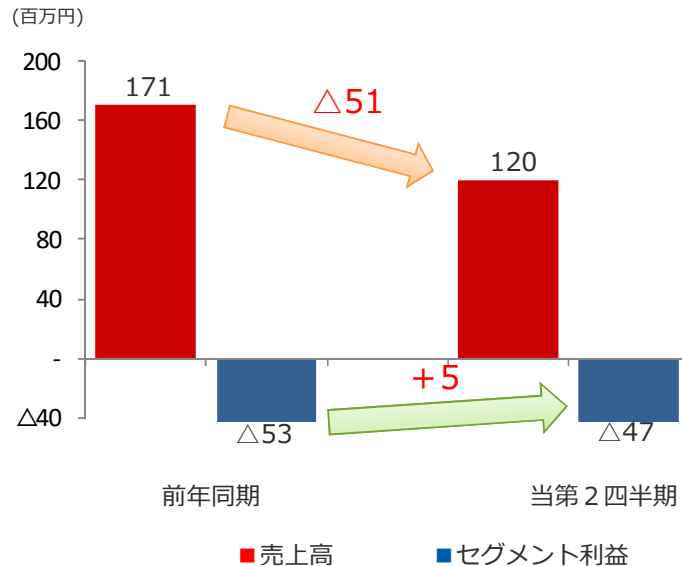
※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 53百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額51百万円を含めております。

コネクティビティ&セキュリティ事業



Ubiquitous
Network Framework

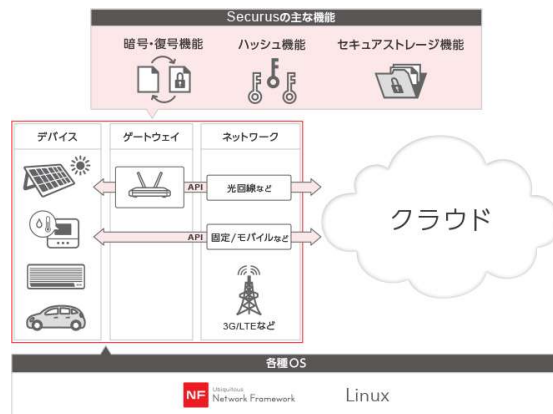


■ 当四半期概況

- 車載機器案件で「Ubiquitous Securus」、「Ubiquitous HDCP」、「Ubiquitous DTCP」に関する新規契約時一時金、受託開発、開発済顧客の量産に向けたロイヤルティ売上を計上
- その他産業機器関連の既存顧客の継続案件の契約時一時金及び受託開発、デジタルイメージング既存顧客からの継続ロイヤルティなどで売上を計上

■ 取組方向性

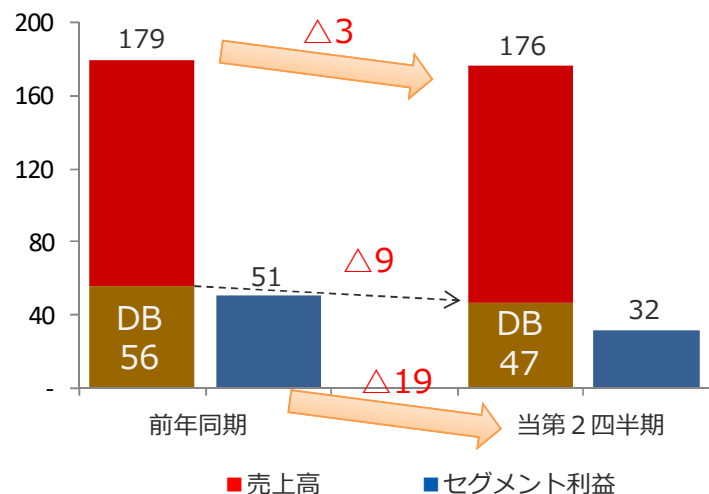
- 新製品「Edge Trust」によるIoTセキュリティ分野での事業展開の加速：半導体/半導体部品メーカー、販社との連携強化、ソリューション提供による拡販展開
- ディストリビューション事業取扱い製品、パートナーとの開発連携によるネットワーク、セキュリティを中心とした製品ラインナップの強化・充実
- 車載、産業、その他IoT市場に向けたセキュリティ関連製品の拡販活動



組込みソフトウェア事業

データベース関連

(百万円)

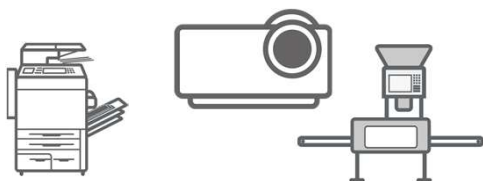


当四半期概況

- 産業機器、車載機器等の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上

取組方向性

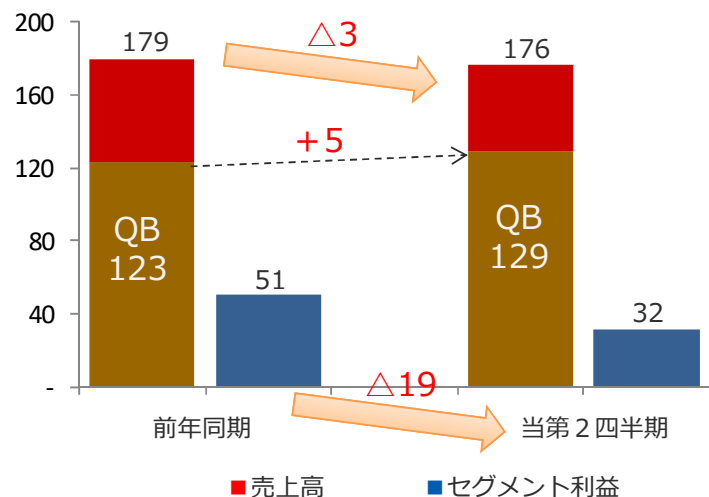
- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販



※グラフは組込みソフトウェア事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上となります。

組込みソフトウェア事業 高速起動関連

(百万円)



■ 当四半期概況

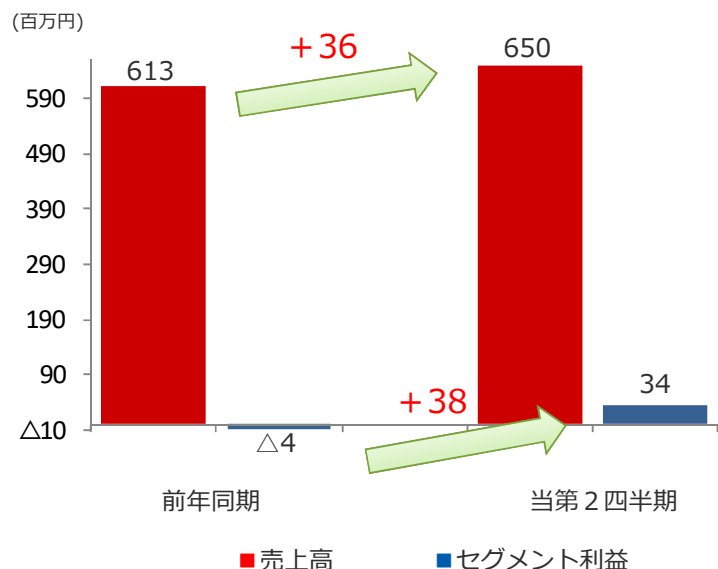
- 車載機器の既存顧客からのロイヤルティ売上が好調
- カーナビゲーションシステム等車載向けの端末を中心に、複数社との間で大・中規模案件の研究開発、及び商品化に向けた新規案件の受注も含めた実装を継続
- 車載機器向けに加えて、一般消費者への電子機器、産業機器、医療機器などから契約時一時金、一部量産製品からのロイヤルティを獲得
- 一部海外顧客案件も量産に向けた開発がスタート

■ 取組方向性

- 電源断対応ファイルシステムや仮想化技術、セキュアブートなどの機能組み合わせなど付加価値の高いソリューション化、クロスセルを推進
- パートナーと連携した、非車載分野、海外顧客向けのアプローチ強化
- 次世代技術の早期対応開発の継続

※グラフは組込みソフトウェア事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上となります。

ソフトウェア ディストリビューション事業



■ 当四半期概況

- ワイヤレス製品：車載機器を中心に「Blue SDK」*1のロイヤルティ売上、受託開発売上等が堅調
- BIOS製品：OA/FA機器を中心に「Insyde H2O」*2のロイヤルティ売上、受託開発売上等が堅調
- 品質向上支援ツール製品：車載機器、医療機器を中心に「CodeSonar」*3やECU関連開発ツールなど、既存顧客からのリピートを含めた年間ライセンス及びサポート売上が堅調
- 「L3スタック」*4を成約、コミッション売上を計上
- その他、オンデバイスネットワーク機器管理用ソフトウェアなど多数の取扱製品より、新規、既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

■ 取組方向性

- 多数の取扱製品と海外パートナーを活用し、自社製品とのシナジー創出施策を実施
- 年間利用ライセンス契約により収益安定貢献の高いソフトウェア品質向上支援等のツール製品を重点的に販売促進
- 成長途上で付加価値の高い商材や、自社のエンジニア能力を活かしたコラボレーションサービスの取り扱いを新規に開発

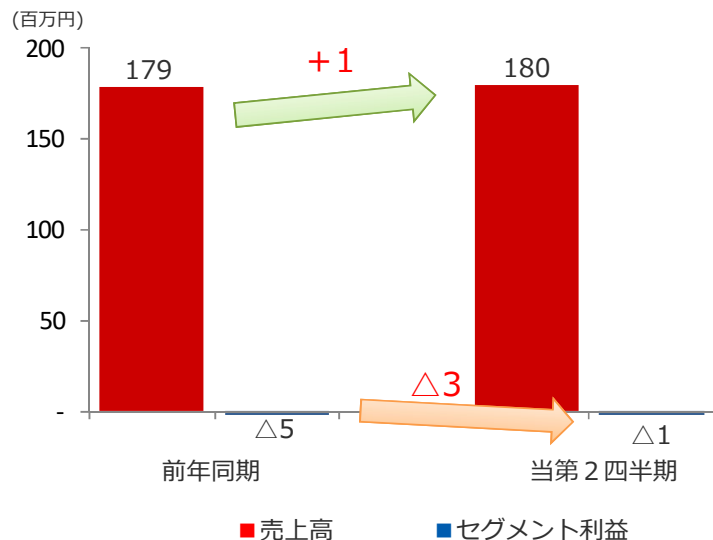
*1 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック

*2 Insyde H2O: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS

*3 CodeSonar: ソフトウェアの動作不具合、脆弱性をソースコードのコンパイル時に静的解析し、バグを検出するツール

*4 L3スタック: レイヤー3のIPv4/IPv6ルーティングソフトウェア

ソフトウェアサービス事業



■ 当四半期概況

- 既存顧客との各種受託開発売上を計上
- 車載機器向けの「YOMIデータ」コンテンツに関するライセンス使用料売上等を計上

■ 取組方向性

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サダマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウヤユミ

アーティスト表記をソート

YOMIをソート

ソート順位	アーティスト表記
1	L'Arc-en-Ciel
2	サザンオールスターズ
3	さだまさし
4	松任谷由実

ソート順位	YOMI
1	サザンオールスターズ
2	さだまさし
3	松任谷由実
4	L'Arc-en-Ciel

トピックス

合併後のシナジーの進捗について

- 2018/7/1に100%子会社の株式会社エーアイコーポレーションを吸収合併
- 新社名「株式会社ユビキタスAIコーポレーション」としてスタート
- 両社商流を活用した積極的な提案活動
- 両社製品の付加価値のあるクロスセル提案
- 知名度、リレーションシップを活用した海外パートナーとの共同開発のスタート
 - Beyond Security社「IoT市場向けファジングフレームワークの共同開発」
 - Jungo Connectivity社「CoDriver」のルネサスエレクトロニクス社のR-Car対応
- 一部事業所の統合と人員の最適配置の推進
- 働きやすい環境へ – 休暇制度の改善



Ubiquitous AI Corporation

「Edge Trust」 発表

■ セキュアな外部からのIoTサービスを実現するためのソリューションを、凸版印刷との協業により実現

- ユビキタスAIコーポレーションのセキュアIoT機器開発のソフトウェアと、凸版印刷の鍵管理・デバイスID管理システムを提供
- IoTサービスにおいて必要となる、複雑・難解なセキュリティ対策に必要な機能をワンストップで実現

■ パートナーエコシステムより、サプライチェーンにおける開発・製造から利用、廃棄までのすべてのプロセスでセキュリティ対策が可能に

- パートナー各社とのソリューション連携により、IoT機器の秘匿情報やファームウェアなどのセキュアな取り扱いを実現
- スタート時点はAWS(Amazon Web Service) IoTに対応



セキュアIoTサービスを実現するソリューション

Edge Trust

Edge Trust の特長

■ セキュアなIoTサービスをワンストップで実現

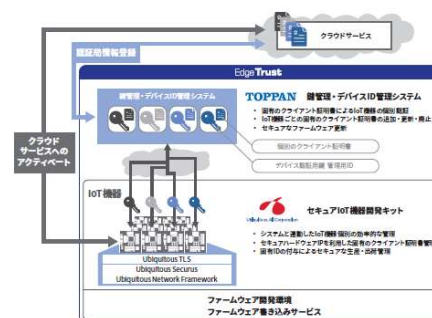
IoTサービスにおけるセキュリティ対策に必要な機能をワンストップで提供することで、お客様はサービスの構築に注力できます。

■ IoTサービスのプロダクト ライフサイクル マネジメントをサポート

IoTサービスにおけるセキュアなデバイス管理を実現し、「モノ」のライフサイクル マネジメントを強力にサポート。ライフサイクルのフェーズに合わせてIoT機器側のステータス管理が可能です。

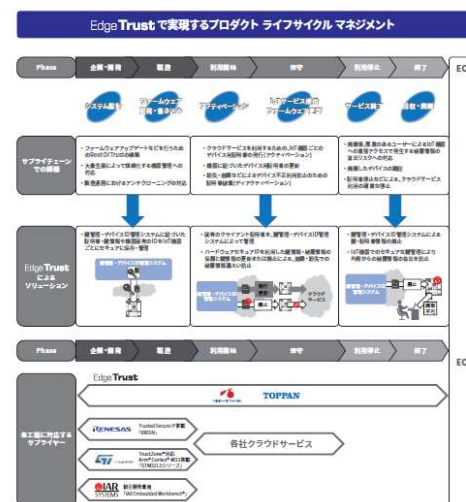
■ お客様のIoTサービス構築に柔軟に対応

お客様のニーズに合わせてハードウェアを選択可能。各種IoTサービスプラットフォームへの対応も順次拡大。



Edge Trust

- ▶ セキュアなIoTサービスを実現するために
- ▶ パートナー各社と連携して
- ▶ プロダクトライフサイクルにおける
- ▶ 課題をワンストップで解決します。



本資料は、本製品の仕様、機能、およびその他の詳細に関するものではありません。内容は予告なく変更される場合があります。最新情報はお問い合わせください。
© Copyright 2018 Ubiquitous AI Corporation. All Rights Reserved.



TOPPAN

RENESAS



※本資料に記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。



Appendix

2019年3月期 第2四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第2四半期	7月6日	■ ユビキタスAIコーポレーションの「Ubiquitous TPM Security」、約24億台の機器が利用するセキュリティ国際規格の最新仕様 TPM 2.0に対応 ～自動車、OA機器、産業機器の暗号対応を支援～
	9月26日	■ ユビキタスAIコーポレーション、IC-CARDアクセスソリューションパッケージ「HE-PCSC」の販売を開始 ～作業者のアクセス権制御や追跡記録データの取得などをローコストで実現～
第3四半期 (参考)	10月3日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Real Time Logic社と日本総代理店契約を締結 ～WebDAV、WebSocketまでセキュアなコネクションで利用できる組込み用アプリケーションサーバー開発ツールの販売を開始～
	10月11日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Allegro Software社と販売代理店契約を締結、組込み用XMLツール「RomXML AE™」の販売を開始
	10月17日	■ ドライバーモニタリングシステムソフトウェア「CoDriver」、ルネサス社の高性能車載半導体「R-Carファミリ」に対応 ～車載SoCシェアでトップクラスのR-Car上で自動運転時代の高度なドライバー/パッセンジャーの状態監視を実現～
	10月24日	■ ユビキタスAIコーポレーションと米国Beyond Security社、IoT機器の脆弱性・セキュリティ検証のための新ツールの共同開発に合意 ～擬似的にIoT機器、車載機器へのサイバー攻撃シナリオを作成、機器メーカーが自社で対象機器の防御力を確認可能に～
	11月12日	■ ユビキタスAIコーポレーションと凸版印刷、セキュアなIoTサービスを実現する「Edge Trust」を2019年3月より提供 ～半導体のハードウェアセキュアIPを活用した機器の秘匿情報保護とクラウドサービスとの連携機能で安全性の高いサービスを構築可能に～

質疑応答概要

【Q1】

通期業績予想の修正については、ソフトウェアサービス事業は安定的に推移し、ソフトウェアディストリビューション事業は前倒しがあったが通期では変わらないので、全体的には、ほぼ計画通りに進捗しており、通期で売上予想を下げたのは、コネクティビティ&セキュリティ事業で、将来的にロイヤルティを稼げるような自社製品のところに注力すべく、受託の売上計画を減らしたことが主因と考えてよいか？

【A1】

前期までは単体での売上は8億円前後であり、固定費を吸収するには、ある一定の売上が必要であったが、7月にエーアイコーポレーション社を吸収合併して一つの会社になったことで無理に売上を積み上げなくても全体で吸収できるようになった。ここ数年、自社製品部門は、ロイヤルティで利益率の高いゾーンを狙っていたが受託開発案件の比率が高くなってきており、どこかで転換が必要と考えていた。今回、上期で良い数字で着地することができたこともあり、将来の利益を稼ぐための製品開発とか将来のロイヤルティを見込める案件の獲得に注力しており、無理に原価率の高い受託案件を追わないことにした。

【Q2】

上期は、エーアイコーポレーション社との合併により一時的な停滞は生じたか？ソフトウェアディストリビューション事業で通信向けの案件が前倒しになったが、これは合併効果か？

【A2】

合併により、事務的には様々な管理が必要であり人的コストはかかっているが、各事業は従来からの活動を継続しており、停滞はしていない。シナジーを生じさせるべく様々な取り組みをしているが、具体的な効果が出るまでは、もう少し時間がかかる見込みである。ソフトウェアディストリビューション事業での前倒しの案件は合併効果ではなく、お客様のご都合によるものである。

(2018/11/14)

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation